

平成26年度 第1回 瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合研究センター
瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(平成26年5月～6月)のポイント

(1) 概要：

シラスは平年を下回る。

(2) 海域別：

紀伊水道東部のシラスは不漁であった前年並み。

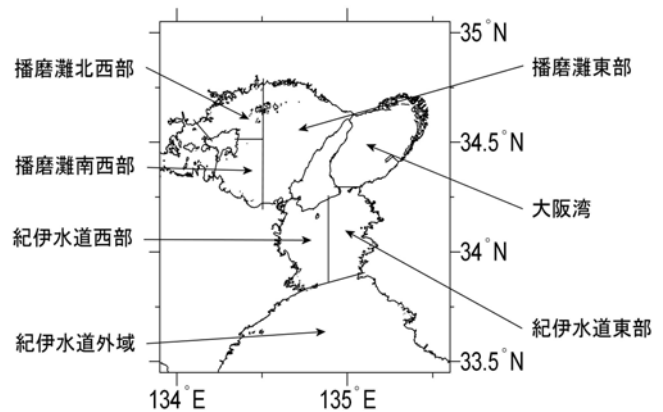
紀伊水道西部のシラスは不漁であった前年を上回るが、平年を下回る。

大阪湾のシラスは好漁であった前年及び平年を下回る。

播磨灘東部のシラスは平年並みであった前年を下回る。

播磨灘南西部のシラスは不漁であった前年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘北西部のシラスは好漁であった前年及び平年を下回る。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

担当：沿岸資源班 梶脇、影沼澤

電話：03-3502-8111(内線6800)、直通電話：03-6744-2377、ファックス：03-3592-0759

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/>

(予報の詳細についてのお問い合わせ先)

独立行政法人水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所 業務推進部

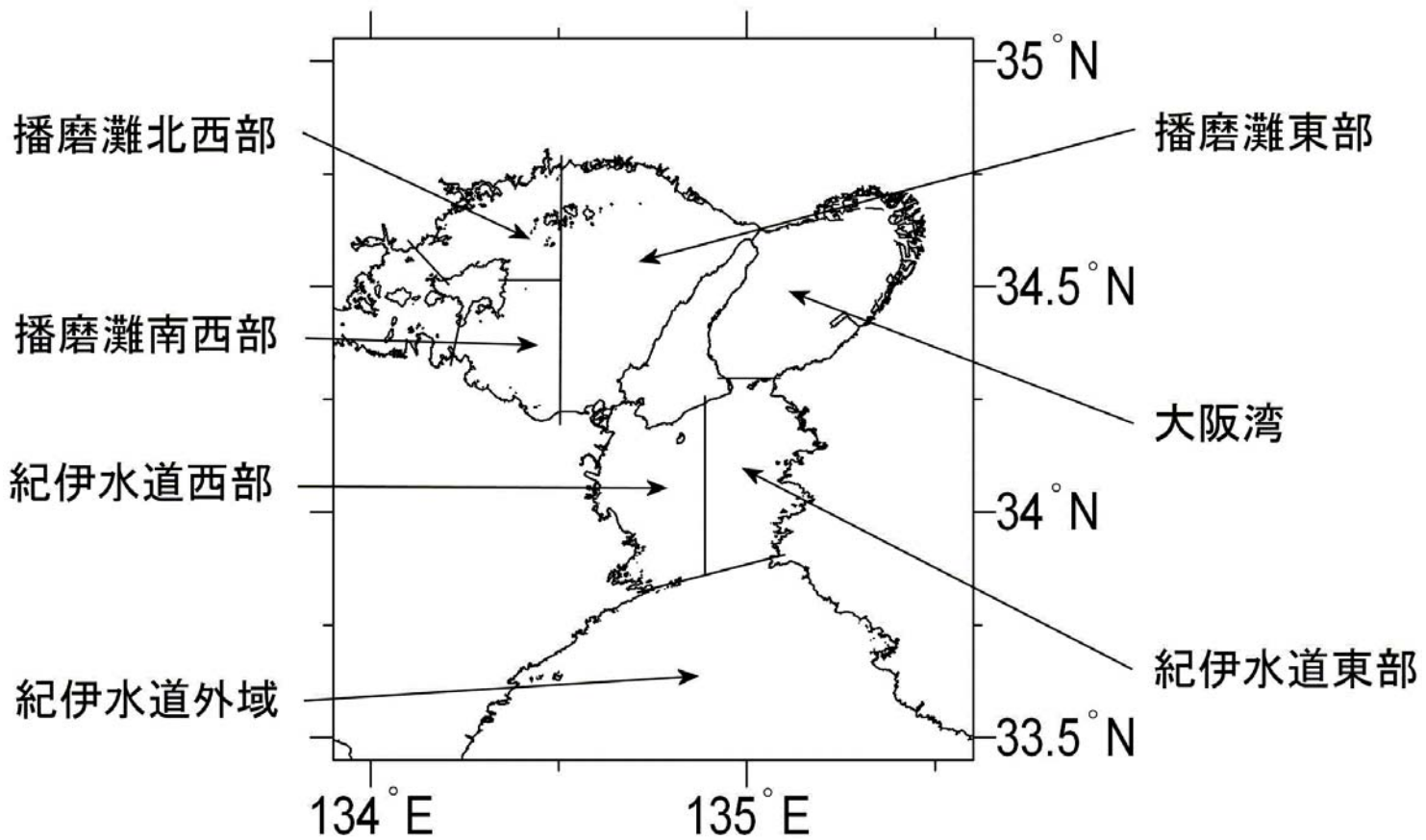
担当：吉田、北村

電話：0829-55-3406、ファックス：0829-54-1216

当資料のホームページ掲載先URL

<http://abchan.job.affrc.go.jp/>

<http://feis.fra.affrc.go.jp/>



平成26年度第1回瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し（2014年5月～6月）

シラス（本年春季発生群）

紀伊水道東部では不漁であった2013年並み。

紀伊水道西部では不漁であった2013年を上回るが、平年を下回る。

大阪湾では好漁であった2013年及び平年を下回る。

播磨灘東部では平年並みであった2013年を下回る。

播磨灘南西部では不漁であった2013年を上回るが、平年を下回る。

播磨灘北西部では好漁であった2013年及び平年を下回る。

標本漁協、もしくは標本船のシラス漁獲量を各海域の指標とし（図1～図3）、特に断りがない場合、1985年～2012年の平均値を平年値とした。

2. 漁況の経過（2013年1月～2014年4月）及び今後の見通しについての説明

(1) シラス漁況

紀伊水道東部（和歌山県側）では2013年の漁獲量は前年の86%、平年の74%であった。2013年5月～6月の漁獲量は前年の184%、平年の77%であった。2014年の春漁は4月14日から始まっており、今のところ好調である。

紀伊水道西部（徳島県側）では2013年の漁獲量は前年の120%、平年の73%であった。2013年5月～6月の漁獲量は前年の428%、平年の54%であった。2014年の春漁は4月21日現在、本格的な出漁には至っていない。

紀伊水道北部（兵庫県側）では2013年の漁獲量は前年の68%、平年の129%であった。2013年5月～6月の漁獲量は前年の414%、平年の140%であった。

大阪湾（大阪府）では2013年の漁獲量は前年の94%、平年の141%であった。2013年5月～6月の漁獲量は前年の304%、平年の126%であった。

大阪湾（兵庫県）では2013年の漁獲量は前年の128%、平年の136%であった。2013年5月～6月の漁獲量は前年の439%、平年の128%であった。

播磨灘東部（兵庫県側）では2013年の漁獲量は前年の63%、平年の89%であった。2013年5月～6月は前年の475%、平年の94%であった。

播磨灘南西部（香川県側）では2013年の漁獲量は前年の53%、平年（1989年～2012年の平均値）の65%であった。2013年5月～6月の漁獲量は前年の148%、平年の17%であった。

播磨灘北西部（岡山県側）では2013年の漁獲量は前年の103%、平年（2000年～2012年の平均値）の167%であった。2013年5月～6月の漁獲量は前年の130%、平年の151%であった。

2014年の春漁は4月24日現在、紀伊水道以外の海域では始まっていない。

(2) 日向灘～紀伊水道での産卵量

中央水産研究所、瀬戸内海区水産研究所がとりまとめたカタクチイワシの産卵状況に関する報告によると、2014年1月～3月には日向灘～紀伊水道外域で産卵が認められ、合計産卵量は49兆粒（前年比438%、平年比46%）であった。

和歌山県水産試験場と徳島県立農林水産総合技術支援センター水産研究課が行った定線調査では、紀伊水道外域での卵密度は2月に1粒/m²（前年0粒/m²、平年比3%）、3月に9粒/m²（前年比465%、平年比7%）であった。仔魚密度は2月に0.4個体/m²（前年比225%、平年比5%）、3月に5個体/m²（前年比324%、平年比

14%)であった。紀伊水道での卵密度は2月に前年同様0粒/m²(平年0.02粒/m²)、3月に1粒/m²(前年比75%、平年比30%)であった。仔魚密度は2月に前年同様0個体/m²(平年0.1個体/m²)、3月に6個体/m²(前年0個体/m²、平年比75%)であった。

(3) 今後の見通しの説明(2014年5月~6月)

シラス(本年春季発生群)

4月21日現在、シラスの来遊環境に影響を与える黒潮流路は、都井岬で接岸、足摺岬でやや離岸、室戸岬~潮岬で接岸している。海面水温衛星画像によると、種子島南東と四国沖に小さな蛇行流路が形成されていることが確認できる。また、各岬における黒潮離岸距離の変動傾向と水産総合研究センター運用の海況予測システム FRA-ROMS の予測結果を併せて考慮すると、5月上旬に黒潮小蛇行の通過に伴い、室戸岬~潮岬ではやや離岸するが、その後に接岸すると推測される。

紀伊水道の春季シラス漁は日向灘~紀伊水道外域での産卵量と来遊環境に主に依存する。4月21日現在、黒潮は接岸しており、4月14日に始まった紀伊水道東部でのシラス漁は今のところ好調である。しかし、5月が主漁期である紀伊水道東部においては、5月上旬に黒潮が室戸岬~潮岬でやや離岸するためシラスの来遊環境は一時的に悪くなると考えられる。また、日向灘~紀伊水道外域の1月~3月の合計産卵量は2013年を上回ったものの、平年を下回っており、紀伊水道東部では不漁であった2013年並みと予測される。例年、本漁期を通して漁獲のある紀伊水道西部においてはシラスの来遊環境は概ね良いと考えられる。しかし、春季のシラス漁獲量と関係が深いと考えられる日向灘と紀伊水道周辺海域におけるカタクチイワシ親魚の漁獲量やカタクチイワシ卵仔魚量から判断すると、紀伊水道西部では不漁であった2013年を上回るが、平年を下回ると予測される。

大阪湾の春季シラス漁は日向灘~紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道及び紀伊水道外域でのシラス現存量、来遊環境に主に依存する。5月中旬以降に潮岬で黒潮が接岸すると予測されているため、来遊環境は5月中旬から好転すると考えられる。今のところ紀伊水道東部でのシラス漁は好調であるが、日向灘~紀伊水道外域の1月~3月の合計産卵量は2013年を上回ったものの、平年を下回った。また、日向灘と紀伊水道周辺海域におけるカタクチイワシ親魚は多くないと考えられることから、大阪湾では好漁であった2013年及び平年を下回ると予測される。

播磨灘の春季シラス漁も日向灘~紀伊水道外域での産卵量、紀伊水道及び紀伊水道外域でのシラス現存量、来遊環境に主に依存する。播磨灘東部では大阪湾と同様の理由から平年並みであった2013年を下回ると予測される。播磨灘南西部でも大阪湾と同様の理由から不漁であった2013年を上回るが、平年を下回ると予測される。播磨灘北西部でも大阪湾と同様の理由から好漁であった2013年及び平年を下回ると予測される。

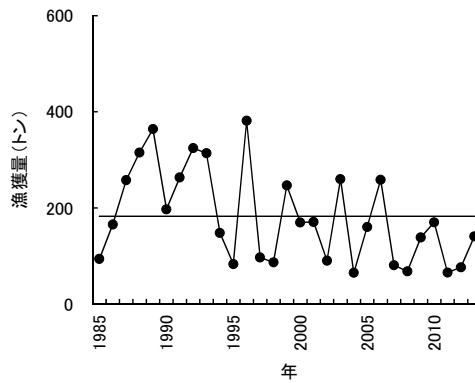
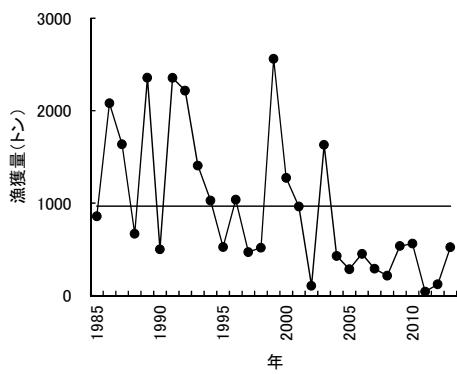


図1 紀伊水道西部（徳島県側：左図）及び紀伊水道東部（和歌山県側：右図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

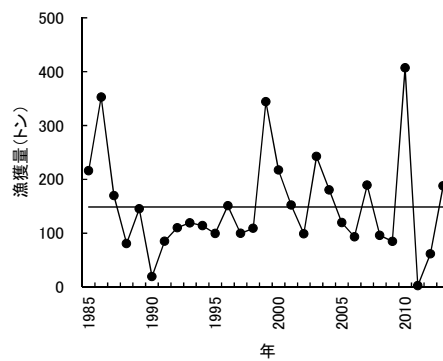
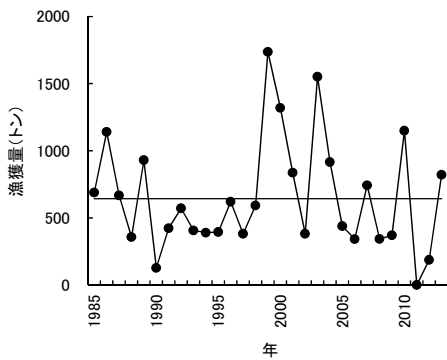


図2 大阪湾（兵庫県：左図、大阪府：右図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

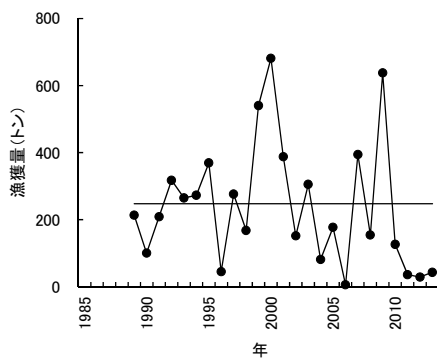
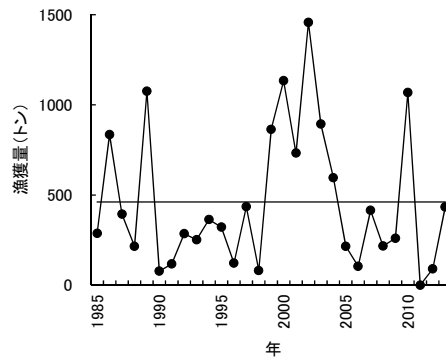
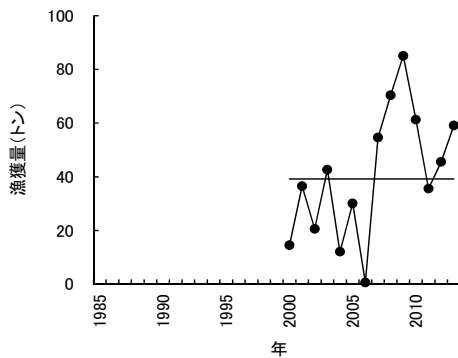


図3 播磨灘北西部（岡山県側：左上図）の標本船における5月～6月のシラス漁獲量、播磨灘東部（兵庫県側：右上図）、及び播磨灘南西部（香川県側：左下図）の標本漁協における5月～6月のシラス漁獲量（実線は平年値を示す）

参 画 機 関

<p>和歌山県水産試験場</p> <p>地方独立行政法人 大阪府立環境農林水産総合研究所 水産技術センター</p> <p>兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター</p> <p>岡山県農林水産総合センター水産研究所</p> <p>香川県水産試験場</p>	<p>徳島県立農林水産総合技術支援センター 水産研究課</p> <p>水産庁 増殖推進部 漁場資源課</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 中央水産研究所</p> <p>(取りまとめ機関)</p> <p>独立行政法人 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所</p>
--	--